

## 福井県民の将来ビジョン 地区別意見交換会まとめ〔産業・労働〕

地区 テーマ	奥越	若狭	二州（敦賀市、美浜町）	坂井地区および永平寺町	丹南	福井
人づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学力・体力全国トップクラスの維持やキャリア教育の推進により競争原理が働くことが危惧される。競争が教育の第一義でなく、結果としてトップクラスであって欲しい。</li> <li>○コミュニケーション手段としての外国人による語学教育を進めるべき。特に今後成長が見込まれる中国、韓国等、東アジアの言語が大事。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○若者の都市への流出は、専門教育の場が無いことも理由の一つ。対策を講じるべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人づくりに関しては、いい意味での田舎化が必要。将来の発展とバランスを取りながら推進するとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人にランクを付けることは一面的な活力になるが、挫折、落ちこぼれなどが危惧される。若い人が活力を失わず、相対的に幸せになる目標があるとよい。</li> <li>○一線を退いた学校の先生のOBによる無料の塾の開設など、高齢者の知力を引出す体制づくりを進めるべき。</li> <li>○人づくりに関しては競争を推進すべき。競争で育った力強い子どもが福井を引っ張る人材になる。</li> <li>○社会においてはコミュニケーション能力が非常に重要。その形成には部活動や青壮年活動が有効。</li> <li>○あわら温泉ではインバウンドのことを考慮すると中国語の授業など、特色ある教育を推進するべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○福井県人は、学力は高いが議論、討論ができない。リーダーシップ、企画力、指導力を育む教育体制づくりを推進するべき。</li> <li>○地場産業、地域産業を取り入れたふるさと教育が小学校で盛んに行われている。同様に中学校でも推進して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人づくりは青少年に限定することなく、大人、高齢者のスキルアップも大事。</li> <li>○データによると特に中学生が地域に支えられ、地域の温かさに育てられたと実感している。福祉教育を推進するべき。</li> <li>○学力と仕事の能力が一致していないと感じる。学力が実社会で生きる教育システムを構築するべき。</li> <li>○情報、技術がオープンになり、過去の蓄積だけでは今後活躍していけない。国の産業政策に合わせ、英語、コンピュータ等のキャリア教育に力を入れていくべき。</li> </ul>
元気なコミュニティづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一旦県外へ出て、戻ってきた人はふるさとに対して熱い思いがある。外に出ても戻ってきたいと思える地域づくりが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○限界集落では三世代世帯の良さを活かす必要があり、そのためにも、県内において労働の場を創出することが不可欠である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○建設業は昨今公共工事が激減している。地域で必要とされるサービスについて住民と話せる場があるとよい。</li> <li>○介護の現場は低賃金で、結婚後家族を養っていきけるか不安である。介護労働者の賃金等の待遇を改善して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○介護現場の働き手として高齢者を活用し、バックアップしていく体制を整えることでお金のかからない在宅介護サービスが可能ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業、林業、伝統工芸などは技術やノウハウを世代を越えて継承していく必要がある。「知恵袋」として高齢者を活用するべきである。</li> </ul>	
環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小原ECOプロジェクトのような環境保全のビジネス化を支援する仕組みがあるとよい。</li> <li>○サトイモ洗い機や用水の落差を利用した発電ができないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○CO2の削減に原子力発電は大きく貢献しており、嶺南地域が環境産業のメッカとなるような政策を推進して欲しい。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境を良くするためにマイナス成長を受入れる社会を構築するのであれば、高度経済成長を景観した世代は、急に対応できないので、長いスパンの中で環境教育を取り入れシフトしていく必要がある。</li> <li>○風力発電建設には騒音などのデメリットもあり、他県のように民家からの距離などを定めた条例を整備して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ありのままの自然を体験できるグリーンツーリズムを希望する方が増えており、積極的に推進するべき。</li> <li>○新エネルギー産業の創出に向けた取組みを全県的に推進するべき。</li> <li>○環境と産業の両立は中小企業では困難。行政の支援が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境保全に対して県民の意識レベルに差がある。腰を落ち着けた着実な取組みが必要。</li> </ul>
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○都市へ流出した人を福井へ戻すには、「今」あるものを「今」に残す視点からのまちづくりが重要である。</li> <li>○観光施設の来館者数が増加しているが、と中心市街地の商店の売上に結びついていない。相互の連携を図る必要がある。</li> <li>○中小企業が減少し、経営者の子どもが稼業を継がずにサラリーマンとなり県外へ流出していく。人口減の観点からの中小企業の支援が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新幹線や高速道路のインフラ整備は手段であり、それだけでは観光誘客に結びつかない。直結する仕組みづくりが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○JR直直化により一時的に観光客が増加したが、尻すぼみになっている。ダイヤの見直し等新快速の利便性の向上が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小松空港から三国へのアクセスが不便であるので、海岸道路の建設による利便性の向上を図ってはどうか。</li> <li>○都市には農林業に関心のある若者が多いと聞く。そのような若者を派遣する事業により、地方と都市の若者の交流を促進して欲しい。</li> <li>○都市部の若者は農村で暮らしたい人が多く、定住希望者へ仕事を斡旋すると人口が増えると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○都市では地域志向の若者が増えており、地方と都市の両方で生活できるライフスタイルの構築により新しい産業や雇用が生まれるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高速交通網の整備により、福井の魅力を短時間で知ってもらうための情報発信力と体系づくりが必要。</li> <li>○東アジアの発展をツールとして定住人口増加のための施策を考えるべき。</li> <li>○福井城を築いた結城秀康を活用したまちづくりを推進して欲しい。</li> </ul>
産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観光のトレンドは、見物型から体験型、さらに今後は、長期滞在実践型に変わり、何処に行くかではなく、行った先で何をやるかが重要視されるだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Uターンの促進には、希望者の受け皿づくり（仕事の選択肢の拡大）が必要。</li> <li>○嶺南地域をエネルギー供給地域としてPRするとよい。また、技術蓄積による新産業の創出に取組むべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○敦賀新港の整備が進んでいるが、防波堤の延伸により魚が湾岸へ入ってこない。港の繁栄と漁業の両立を図るべき。</li> <li>○新幹線や高速道路のインフラ整備は手段であり、それだけでは観光誘客に結びつかない。直結する仕組みづくりが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○繊維、眼鏡産業同様、試験装置の充実など、金属加工業への支援にも注力して欲しい。</li> <li>○観光において、「健康長寿」を売りにした戦略を継続するべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漁業においては、付加価値があり、価格の落ち込みが少ない「越前カニ」のような「魚ブランド」の構築と情報発信をする必要がある。</li> <li>○「めがねのまち鯖江」と言われているが、駅に降り立ってもそのイメージはない。まち全体がショールームになるような地域を売る仕組みづくりが必要。</li> <li>○中国の富裕層が日本のいい製品を求めている。しかしながら輸出の制約が大きく、アジアマーケット戦略に対する行政の支援が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東アジアをマーケットと考えた場合、福井が供給者となり得るかの判断と産業の大規模化が必要。</li> <li>○若者が福井に帰ってこないのは、大きな産業が欠けているからである。優秀な人材が育つ産業、優秀な人材を活かせる産業の誘致を進めるべき。</li> <li>○新幹線が来るであろう10年後には、福井城跡は観光シンボルとして考える必要がある。</li> </ul>